

# ベトナムにおける地方図書館の機能とその発展

## —ロンアン省図書館を訪ねて—

大野 美 紀 子

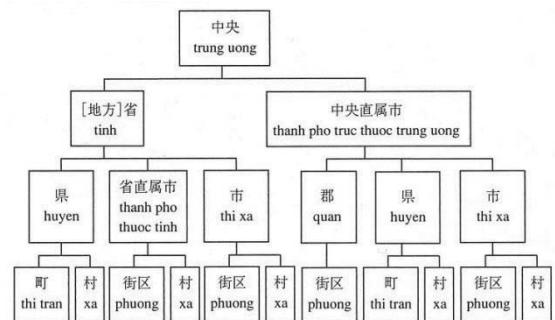
### はじめに

本稿は、ベトナムにおける地方図書館の現状を素描すると同時に現在経済発展著しい新興国ベトナムにおける教育・文化行政の一端を垣間見る記録として、同国公文書行政とアーカイブズとの関連性を扱った前稿を補うものである<sup>1</sup>。

ベトナムにおける資料保存・利用機関は、大学・研究所等の教育・研究機関付設を除くと、博物館、図書館、文書館に大別される。うち、前稿で紹介した文書館は行政文書を取り扱うため内務省管轄であるのに対し、博物館、図書館は文化省管轄となっている。機関は管轄省庁が異なるとはいえ、ベトナムの場合、級 *cấp*・部門 *ngành* の縦横にわたる行政階梯を構成し、必要に応じて省庁の管轄を超えて連携可能な体制となっている<sup>2</sup>。地方においては、いずれの機関も日本に比して規模・機能とも小規模でいまだ発展途上にあると言えるが、中央館（省）一分館（各県）と体系化された機構としての形態を有し、また内務省轄文書館と文化省轄図書館は、それぞれ取り扱う対象資料・利用機能を明確に分別している。同じ文化省管轄に属する図書館と博物館は、とりわけ地方レベルにおいては日常的に緊密な連携を有しており、図書館と博物館付設図書室に常駐する司書は業務を同じくすることや司書教育課程における同窓関係をもつなど人的交流が密である。

### 1. 地方における図書館機構

本稿は、前稿と同じくベトナム最大の経済都市ホーチミン市西方のロンアン省における事例を紹介するが、発展度合いは異なるとはいえ全国各省ともロンアン省とほぼ同様の組織形態になっている。地方行政階梯は図1を参照されたい。本稿内容の多くは、ロンアン図書館（*Thư viện Long An*）副館長からの聴取に負っている<sup>3</sup>。



(注) 92年憲法第118条に基づいて作図。

図1. 中央・地方行政単位

(出典：白石昌也編『ベトナムの国家機構』明石書店、2000.5、p.19)

前述のごとく、ロンアン省には内務局管轄文書館と文化局管轄博物館付設図書室および図書館がある。博物館付設図書室は考古学・歴史を主とする学術書を所蔵し博物館内研究者の利用に供しており非公開、博物館の発掘報告書など研究資料も保存した研究支援機能を主体としているに対し、図書館は一般利用者向けに公開され閲覧・貸出を行ういわゆる公共図書館として機能している。省都タンアン市にあるロンアン図書館が中央図書館とな

り、その下の県レベルで 13 県都に各々図書室 *Phòng Thư viện* が設置され、行政階梯に応じた図書館機構を構成している。行政最末端単位である村には、まだ図書室が設置されていない。この図書館機構は財政的には省文化局を介して配分される予算によって運営され、中央館であるロンアン図書館が各県図書室を全面的にバックアップし、運営費と購入資料、各種情報を配分しており、直下の図書室が独立した運営を行うことはほとんどない。



写真 1. ロンアン図書館前景

## 2. 中央館の組織・業務実態

ここで、中央館であるロンアン図書館の業務内容を見てみよう。ロンアン図書館は省人民委員会や文書館と近接した省都の官庁街に位置しているため、利用者がアクセスし易い好立地にあると言えよう。現在の図書館は 1995 年文化局の跡地に建設された。現職スタッフはベトナム戦争中やフランス植民地期の同図書館の状況についてまったく傳承されておらず、同館が貴重書として所蔵している若干の漢文・チューノム史料や行政資料も 1975 年の戦争終結以降の収集にかかるものであり、旧体制時代の図書館活動とは完全に断絶している。

### a. 組織と職員

同図書館は、事務室 *Phòng hành chính*、業

務室 *Phòng nghiệp vụ*、閲覧室 *Phòng công tác bạn đọc* の 3 部門に分かれており、事務室が資料受入を、業務室が資料の選書・整理を担当している。

図書館には、館長、副館長各 1 名、一般職員として事務室 3 名、業務室 9 名、閲覧室 4 名の図書館専門職員と守衛 1 名がいる。図書館職員はすべて司書資格取得済みであり、男性 6 名、いずれもロンアン省内出身者である。館長が修士号を取得しており、大学卒は 11 人、残りは図書館高等専門学校 *Trường cao đẳng thư viện* を卒業している。

任用に至る過程は、大学あるいは専門学校で司書資格を取得後採用されると、初年度は試用期間として給与 75% 支給、1 年後に国家公務員として正式採用するか否かの任用会議での採決を経て国家公務員として正式採用となる。大卒か高等専門学校卒かの学歴の相違は初任給に反映される。大学における司書課程は、2 年間の教養課程修了後に専門科目として目録作成 *miêu tả*、図書分類 *phân loại*、書庫管理 *tổ chức kho*、図書館運営 *công tác hoạt động* などの科目を学ぶことになる。一方、ホーチミン市文化大学とティエンザン省に設置されている図書高等専門学校は、就学期間が 3 年間である。副館長自身はホーチミン市総合大学（現人文社会科学大学）図書情報学科を卒業している。

### b. 蔵書構成と収書

同館の 2011 年末時点における所蔵は、図書 70,760 タイトル、149,000 冊、新聞雑誌 206 タイトルを継続講読、うち雑誌が 70 タイトル、年間平均購入数は、図書 1200 タイトル、約 3000 冊である。

図書館経費はすべて国家予算であり、毎年変動するが 2010 年実績は約 13 億ドン（日本

円で約 5,814 千円)、うち図書資料購入費が 60%を占めている。



写真 2. 書庫

購入は FAHASA などホーチミン市の書籍販売店が送付してくるリストで購入することが多く、まれに館員自身がホーチミン市で直接購入することもある。購入書籍の選書は、専門書で政治社会約 30%、自然科学約 20%、医学・技術実用書 25%、その他が児童書・小説である。購入対象は国内書籍が主体で、洋書は高価なため役所等の寄贈に負っている。以前にロシアの新聞を継続購入していたが、予算がないため現在は購入していない。

収書方法として、各機関からの寄贈がある。とくに、2010 年同省出身の歴史家チャン・ヴァン・ザウ Trần Văn Giàu (1911-2010)教授の旧蔵書が遺贈され、それが 3000 冊以上になった。記念して同教授のコレクション室を設け、冊子体コレクションカタログ 3 巻を作成した。また、貴重史料として展示している漢文チューノム線装本『大南寔録』も以前に一般利用者から寄贈されたものである。ほかに、省共産党関係内部資料を若干所蔵している。

#### c. 整理業務

資料整理用としてパソコンが 10 台ほどあり、図書館システムは UNESCO から文化省を介して譲渡されたものを使用している。94 年以降パソコンを導入したが、当初職員がパソ

コンを使用した業務に不慣れだったため、オンラインカタログ化が実現したのは 2005 年と遅かった。現在開架閲覧室ではパソコンを利用して同館および国家図書館の所蔵検索が可能となっている。



写真 3. チャン・ヴァン・ザウ教授寄贈コレクションルーム



写真 4. 目録作業中の司書

#### d. 図書館間ネットワーク

ロンアン図書館では OPAC は館内でのみ利用可能で、まだネット公開するに至っていない。他省図書館もほぼ同様の状況にあり、国内でネット上公開されている OPAC は国家図書館のものくらいである。

相互貸借では、ベトナム南部において、東部 7 省とロンアン省を含むメコンデルタ 11 省がそれぞれ図書館連盟を結成しており、加盟館内で相互貸借を行っている。例えば、昨年度は 10 件の相互貸借が発生しており、いずれも研究者による地方誌史閲覧だった。相互貸借は、メールで所蔵を照会し現物資料を郵

送で取り寄せている。相互貸借にかかる費用は郵送料のみであり、現状のところ件数も少なく郵送料は僅かなため利用者に代わって当館で負担している。

#### d. 閲覧業務

閲覧室は、月水金が終日 7:00-11:00、13:00-15:00、18:00-20:00 開館、火木が半日開館、土日休館である。図書閲覧室に排架されている一部参考図書や雑誌・新聞閲覧室に排架されている未製本雑誌等は自由に閲覧できるが、図書については原則閉架式で、利用者はパソコンやカードによる蔵書検索で希望資料を申し込み用紙に記入して請求する。利用者は日によってかなり変動し、ときに 2、3人のときもあるが、おおむね帰宅途上に立ち寄るため夜間利用者による本の貸出が多い。館外貸出は小説類の娯楽本が多く、貸出期間は1週間、延長2回まで可能である。万一紛失した場合は現物を購入して弁償する。



写真 5. 新刊書紹介コーナー

2010年延べ貸借30,000件、閲覧のみ50,000件となっている。利用頻度の高い読者は閲覧者証を作成しており、昨年は398枚の閲覧者証が発行され、5,000件近く利用された。閲覧者は学生が全体の半数以上を占め、次に公務員が3割、残りが一般人である。閲覧者証は毎年作成時に4,000ドンを支払って作成し、有効期間1年間、発行には学校や職場の紹介

状や人民証明書など何らかの証明書が必要である。



写真 6. 雑誌・新聞閲覧室で新聞を読む利用者

#### まとめにかえて

ベトナムの地方図書館は発展途上にあり、まだ町村レベルに図書館施設が設置されていない。その代わりとして、全国の村レベルまで張り巡らされた郵便局が図書館機能の一部を補完して、郵便局内にインターネットや新聞雑誌・若干の書籍閲覧コーナーが設けられていることが多い。加えて、郵便局の集配車は省都一県の図書館間を結ぶ配送役も果たしている。



写真 7. 村の集会所に置かれた書棚

また、近年「文化の家 nhà văn hoa」と呼ばれる集会所が村やその下位にある集落に建設されており、その集会所に置かれたキャビネットに若干数の書籍・雑誌が排架され自由に閲覧できるようになっている。資料のほとん

どは、村の農民会や婦人会などの社会団体に上部組織から配布される資料（農作物栽培の手引き、活動用パンフレット等）や省が公務員教育・啓蒙用に無料で配布している各種雑誌・新聞・公報類である。

このように、ベトナムの地方図書館は、地方行政階梯の各レベルに応じて省図書館—県図書室—村の「書架」（文庫）と図書館施設については政府の強力な後押しを受けて順調に発展しつつある。しかし、個別の図書館業務における課題は多く、とりわけ図書館システムの立ち遅れが今後の切迫した課題として立ちだかっているのが現状と言えよう。図書館システムそのものが UNESCO から寄贈されたシステムをそのまま使用しているため、個々の図書館事情に合わせた仕様に変更できない。また、中央—県で統合された OPAC は存在せず、目録はいまだ中央館内の端末でしか見ることができない。さらに地域ごとに図書館連盟を結成して相互貸借サービスを導入しているものの各省間の情報伝達がオンライン化されていないため運用が限定的にならざるを得ない。このようなシステム上の脆弱性をカバーし情報交換や相互貸借を可能ならし

めているのは、自館蔵書に精通した司書の個人的能力と司書間のヒューマンネットワークであろう。実際、司書課程を共にしたという同窓意識は非常に強く、さらに、文化省が提供する様々な研修や会議を通じて、人脈作りが盛んに行われている。また、財政等の運営は中央館によるトップダウン型であるため、県レベルの選書要求が反映し難い制度であり、これもまた実際の運用では司書間のヒューマンネットワークが中央館—県図書室関係を補足・調整しているのではないかと思われる。

もうひとつの公立図書館としての特徴は、現行の蔵書構成を見ると、児童書についてほとんど購入されておらず成人を対象とする社会教育施設の側面が強いことである。図書館は文科省、児童サービスは教育省と、別々の管轄下に置く政策の反映であろうが、公立図書館としてどのように機能していくか今後の方向性が問われていくであろう。

(おおの みきこ: 京都大学東南アジア研究所  
助教)

<sup>1</sup> 大野美紀子「「法治国家」の確立をめざして：新興国ベトナムにおける地方アーカイブズの機能と役割」『東京大学経済学部資料室年報』2, p.72-83, 2012.3。

<sup>2</sup> 前掲 74 頁。例えば、資料保存担当者すべてに対して個人情報保護法研修会を開催するとすれば、省庁管轄を超えてこれら 3 機関の関係者が一堂に会するということもありえる。

<sup>3</sup> 2012 年 2 月 15 日聴取。

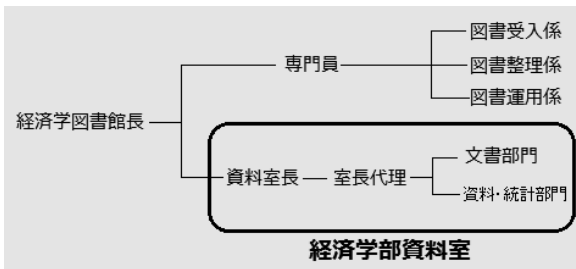
# 報 告

## ■ 組織、構成員、施設・設備

(平成 24 年 12 月現在)

### (1) 組織

(東京大学経済学図書館)



### (2) 構 成 員

役 職	職 名	氏 名
資料室長	教 授	伊 藤 正 直 (兼任)
室長代理	講 師	小 島 浩 之
	特任助教	矢 野 正 隆
	助 教	内 田 麻 里 奈
	学術支援専門職員	富 善 一 敏
	学術支援専門職員	大 谷 正 幸
	学術支援職員	設 楽 舞
	学術支援職員	廣 瀬 敦 子

※資料室長は経済学図書館長が兼任

### (3) 施 設 ・ 設 備

▶ 学術交流棟 (小島ホール)

① 閱 覧 室 : 35 m<sup>2</sup>

閲覧席 10 席、マイクロスキャナー 1 台

閲覧者用端末 1 台

② 閱 覧 室 前 室 : 14 m<sup>2</sup>

③ 調 査 整 理 室 : 79 m<sup>2</sup>

④ 古 文 書 整 理 室 : 14 m<sup>2</sup>

⑤ 荷 解 室 : 38 m<sup>2</sup>

簡易ドラフトチャンバー 1 台

⑥ 保 存 処 置 室 : 43 m<sup>2</sup>

脱酸性化処理装置 (スプレー式) 1 式

燻蒸 (殺虫) 装置

(テント式 4.5 m<sup>3</sup>、CO<sub>2</sub> 使用) 1 式

低温冷凍庫 (低温殺虫用) 1 台

⑦ 保 存 庫 1 ~ 3 : 396 m<sup>2</sup> (前室・階段室を含む)

▶ 赤門総合研究棟

① 収 蔵 庫 : 119 m<sup>2</sup>

② マイクロ収蔵室 (図書館と共用) : 45 m<sup>2</sup>

## ■ 業務・活動報告

(平成 24 年 1 月 ~ 平成 24 年 12 月)

### (1) 主な出来事、人事、研修など

▶平成 24 年

4 月 3 日	無線 LAN 工事のため臨時閉室 (13:00~15:00)
4 月 3 日	暴風警報発令のため午後閉室
5 月 23 日	富善学術支援専門職員を全国歴史資料保存利用機関連絡協議会 (全史料協) 関東部会総会に派遣
6 月 8 日	鳥取県西伯郡伯耆町上細見矢田貝家文書第 2 回調査 (小島講師・矢野特任助教・富善学術支援専門職員) (11 日迄)
6 月 27 日	富善学術支援専門職員を中野家文書調査のため九州大学記録資料館に派遣 (29 日迄)
7 月 2 日	内田助教を一橋大学社会科学古典資料センター「第 13 回西洋古典資料保存講習会」に受講者として派遣 (4 日迄)
8 月 6 日	夏季一斉休業のため閉室 (8 日迄)